

在日韓国・中国・ブラジル人の 母親の育児ストレス

—日本の母親との比較から—

静岡県立大学看護学部

清水 嘉子 (Yoshiko Shimizu)

要約

国際化時代の中、日本に住む外国人は、年々増加の傾向にある。本研究は国籍別上位にある3カ国の在日韓国、中国、ブラジル人の育児問題を明らかにすることを目的として調査を行った。外国人の多在住4市の保育園に調査用紙を配布し韓国・中国・ブラジル人の母親210人より回収された結果を国別に分析した。さらに日本の母親625人との比較を行った。

結果として、在日外国人の育児に関する受け止めの違いが明らかとなった。①育児ストレスはブラジルの母親が最も低く、次いで中国、韓国、日本となっていた。育児幸福感は逆の順位となり日本の母親がもっとも低かった。②育児ストレスは韓国・中国の母親は子どもの知的・言語能力や性格に高く、ブラジルの母親は子育てしながら就職できる場所がない、日本の母親は子どもが事件に巻き込まれるのではが高かった。ブラジルの母親は帰国後の不安や子どもの差別など異文化特有のストレスも高かった。③ストレス時の対処ではブラジルの母親はあきらめや我慢、韓国・中国人は人の助けを得るが高かった。④夫に対する信頼や大切な気持ちは日本の母親が最も低く、育児を取り巻く人に対するストレスが日本の母親に高いことが裏付けられた。

キーワード：在日外国人、育児ストレス、比較

I. 緒言

国際化の時代の中で、日本に住む外国人は、年々増加の一途をたどっている。

1992年から現在まで国籍別にみっていくと、第一位韓国/朝鮮、第二位中国、第三位ブラジルとなっている。1947年から1986年までの40年間は、歴史的背景を持つ従来からの韓国/朝鮮であったが、1990年入国管理法の改訂に伴う在留資格の変更に伴い、東南アジア・南米からの「新しい外国人」・ニューカマーの増加によって、その人口構成は大きく変化している。

高齢人口のほとんどは韓国/朝鮮であったのに対し、生産年齢に集中した労働・就労目的の「新しい外国人」・ニューカマーが多くなり、オーバーステイの女性外国人を含め、20～35歳代の妊娠・出産・育児年齢に集中して増加している。夫また

は妻のどちらか一方が外国人であるという国際結婚が増え(特に妻が外国人が30年間で27倍となっている)、そのことに伴って「外国人」児となり、「子どもの国際化」が進んでいる。また、無国籍の乳幼児が急増しており、子どもの生存権の問題も含めてきわめて深刻な問題といえる。在日外国人の形態が変化し、保健・医療・福祉の分野でも様々な問題が起こってきている²⁻⁴⁾。

在日外国人の妊娠分娩の実態によると、困った問題として一位言葉、二位生活習慣、三位保険未加入(医療費問題)があげられている⁵⁻⁷⁾。また、育児についてみると^{2, 8-10)}、外国人登録の不備(就職証明書)のために入園を断られる子ども達の問題は、医療問題も含めて厳しい現実があること、どの地方にも、外国人の子どもの入園数が増し、その対応に追われているのが現状であることがあ

げられる。1993年保育園における外国人園児都道府県別国籍割合では、東京都・愛知・神奈川・埼玉となっており、1994年幼稚園連合会調査によると園児の国籍でみていくと、韓国・朝鮮続いて、米国、中国、フィリピン、ブラジル、ペルーとなっている。会話では日本語が54%、十分ではないが一応日本語が40%、外国語で対応が6%であった。

こうした中で多文化理解教育を実践するべく様々な取り組みがなされている。特に保護者が保育者や園に対して信頼感がもてるよう取り組むことが問われているといえる。

そこで本研究では、特に在日外国人の育児問題に着目し、1) 在日外国人の上位3ヶ国の韓国・中国・ブラジル人の母親の育児ストレス、育児ストレスへの対処、夫への思い、日本に対する希望、育児幸福感を明らかにし、2) 1) で明らかにされた結果と日本人の母親との比較を行うことで、わが国における異文化での子育てを含めた問題について検討した。

II. 研究方法

1. 調査用紙の作成

日本語版の育児ストレス尺度33項目¹⁰⁾に、在日ブラジル人の母親を対象にした育児ストレス調査¹¹⁾より内容としてもっとも多かった7項目を加え40項目¹⁰⁾の育児ストレス尺度表を作成した。さらに、母親に対して、夫婦関係や対処法、日本への希望など選択式の項目を加え調査用紙を完成させた。日本人の母親には40項目の育児ストレス尺度を用いた。

対象の調査負担を考え項目を精選し、できる限り少ない内容で実施できるよう配慮した。調査用紙はそれぞれの母語(ポルトガル語、韓国語、中国語)に翻訳を依頼し、さらに専門者による翻訳項目の確認を行った。

2. 調査期間

平成12年8月～9月…0～6歳の子どもの育児をしている日本人の母親を対象とした調査

平成13年8月～11月…0～6歳の子どもの育児をしている在日外国人の母親を対象とした調査

3. 調査用紙の配布

在日外国人が多く住んでいる市の福祉課に、電話および直接訪問し、調査概要の説明を行い、在

日韓国・中国・ブラジル人が在園している施設の紹介をお願いした。紹介された各園に電話にて調査の概要説明と協力依頼を行った。調査用紙は園に送り、園での配布と回収をお願いした。調査対象である在日韓国・中国・ブラジル人の母親は園より説明を受け、母語によって書かれている調査依頼文を読んだ後、調査協力の得られた者に調査を依頼していった。

1) ブラジル人の母親への調査

H市(14ヶ所の私立保育園)に計82部配布し47部回収した。T市(14ヶ所の私立保育園)に計135部配布し61部回収した。両市合わせて217部配布し110部回収した(回収率50.7%)。

2) 韓国・中国人の母親への調査

Y市(4ヶ所の私立保育園24ヶ所の公立保育園)に計韓国89部・中国62部配布し韓国13部・中国46部回収した。K市(58ヶ所の市立保育園)に計韓国42部・中国87部配布し韓国16部・中国24部回収した。両市合わせて韓国131部・中国149部配布し韓国29部・中国70部回収した(回収率韓国22.1%・中国47.0%)。

3) 日本人の母親への調査

S市8公私立保育園・1公立幼稚園、N町2公立保育園、子育て支援センター、N市1私立幼稚園に調査用紙の配布と回収を依頼した。2市1町併せて900部配布し625部回収した(回収率69.4%)。

4. 分析方法

育児ストレス33項目および在日外国人を対象とした7項目は、「全くあてはまらない」から「あてはまる」の各段階に1点から4点とし、40項目の合計値を育児ストレス値とした。統計学的処理はwindowsのspss版にて検定を行った。

III. 調査結果

1. 国別対象の属性

母親の年齢と国籍、夫の年齢と国籍、在日年数、子どもの数、母親の就業の有無と母親と夫の仕事の時間について表1に示された。

母親の年齢では、各国とも30歳代が最も多く、ついでブラジル・日本では20歳代が、韓国・中国では40歳代が多かった。

母親の国籍では、ほぼ母国となっており、ブラジルではペルー4人、日本1人であった。

表1 ブラジル・韓国・中国人の調査対象の属性

		人(%)			
		ブラジル	韓国	中国	日本
母親の年齢	20歳代	29 (26.1)	2 (6.9)	5 (7.1)	151 (23.7)
	30歳代	71 (64.0)	21 (72.4)	49 (70.0)	424 (66.6)
	40歳代	9 (8.1)	5 (17.2)	15 (21.4)	50 (7.8)
	50歳代	0 (0)	1 (3.4)	0 (0)	0 (0)
	無回答	2 (1.8)	0 (0)	1 (1.4)	13 (2.0)
母親の国籍	ブラジル	104 (93.7)	0 (0)	0 (0)	
	ペルー	4 (3.6)	0 (0)	0 (0)	
	韓国	0 (0)	21 (72.4)	0 (0)	
	中国	0 (0)	0 (0)	46 (65.7)	
	日本	1 (0.9)	0 (0)	2 (2.9)	
	台湾	0 (0)	0 (0)	3 (4.3)	
	その他	1 (0.9)	0 (0)	0 (0)	
	無回答	1 (0.9)	8 (27.6)	19 (27.1)	
夫の年齢	20歳代	18 (16.2)	0 (0)	4 (5.7)	101 (15.8)
	30歳代	66 (59.5)	14 (48.3)	32 (45.7)	379 (44.6)
	40歳代	20 (18.0)	11 (37.9)	26 (37.1)	142 (22.3)
	50歳代	1 (0.9)	3 (10.3)	5 (7.1)	0 (0)
	無回答	6 (5.4)	1 (3.4)	3 (4.3)	16 (2.5)
夫の国籍	ブラジル	97 (87.4)	0 (0)	0 (0)	
	ペルー	3 (2.7)	0 (0)	0 (0)	
	韓国	0 (0)	19 (65.5)	0 (0)	
	中国	0 (0)	0 (0)	33 (47.1)	
	日本	3 (2.7)	1 (3.4)	18 (25.7)	
	台湾	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	その他	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	無回答	8 (7.2)	9 (31.0)	19 (27.1)	
在日年数	3年未満	11 (9.9)	8 (27.6)	2 (2.9)	
	3～5年未満	18 (16.2)	5 (17.2)	11 (15.7)	
	5～10年未満	36 (32.4)	8 (27.6)	29 (41.4)	
	10年以上	44 (39.6)	7 (24.1)	24 (34.3)	
	無回答	2 (1.8)	1 (3.4)	4 (5.7)	
子どもの数	1人	52 (46.8)	15 (51.7)	34 (48.6)	163 (25.5)
	2人	46 (41.4)	10 (34.5)	24 (34.3)	319 (50.0)
	3人	9 (8.1)	3 (10.3)	11 (15.7)	126 (19.7)
	4人以上	3 (2.7)	1 (3.4)	1 (1.4)	17 (2.6)
	無回答	1 (0.9)	0 (0)	0 (0)	13 (2.0)
母親の就業	あり	95 (85.6)	24 (82.8)	64 (91.4)	488 (76.5)
	なし	11 (9.9)	1 (3.4)	5 (7.1)	128 (20.1)
	無回答	5 (4.5)	4 (13.8)	1 (1.4)	0 (0)
母親の仕事時間	8時間	1 (0.9)	14 (48.3)	12 (17.1)	
	8～12時間	72 (64.9)	2 (6.9)	53 (75.7)	
	12時間以上	25 (22.5)	10 (34.5)	2 (2.9)	
	無回答	3 (2.7)	1 (3.4)	3 (4.3)	
夫の仕事時間	8時間	7 (6.3)	3 (10.3)	4 (5.7)	
	8～12時間	81 (73.0)	20 (69.0)	56 (80.0)	
	12時間以上	14 (12.6)	1 (3.4)	7 (10.0)	
	無回答	9 (8.1)	5 (17.2)	3 (4.3)	

n = 111

n = 29

n = 70

n=625

表2 ブラジル・韓国・中国人の育児ストレス

育児ストレス平均値 標準偏差	ブラジル		韓国		中国		日本	
	70.6	項目 平均 順位	85.6	項目 平均 順位	84.8	項目 平均 順位	86.0	項目 平均 順位
スト1 育児のことを考えると漠然とした不安を覚える	2.5		2.6		2.1		2.1	
スト2 子どもの性格に気がかりがある	2		2.5		3.1	△1	2.2	
スト3 子どもにどう接していいかわからない	1.9		2.5		1.8		1.8	
スト4 子どもがあまりにも思い通りにならない	2		2.2		1.5	▼1	1.6	▼1
スト5 育児について期待していたことと現実との間にギャップを感じてしまうことが多い	1.6		2.6		2.1		1.8	
スト6 子どもの顔つきや容貌容姿に気がかりがある	1.4		1.5	▼1	1.5	▼1	2.1	
スト7 同じ年頃の子どもの様子を知って我が子が劣っているのではと不安に思う	1.1	▼1	1.8		1.9		2.4	
スト8 夫が子育てに協力的じゃない	1.6		1.8		1.5		2.2	
スト9 夫は子どもより自分の生活を中心に考えている	1.2		2.1		1.5	▼1	2.0	
スト10 夫が私の育児生活の苦勞をわかってくれない	1.5		1.9		1.7		2.0	
スト11 夫の子育ては不完全でかえって迷惑なことをする	1.4		1.6	▼3	1.5	▼1	2.4	
スト12 子育てしながらでは就職できるところがなくて困っている	2.9	△1	2		2.2		2.1	
スト13 いつか子育てに余裕ができる頃に就職できるかが不安だ	1.9		2.1		2.2		1.8	
スト14 子育てに専念しているために社会から取り残された気持ちになる	1.6		2		1.9		2.1	
スト15 周囲の人に子どもの母親としてしか見てもらえないのが辛い	1.1	▼1	1.5	▼1	1.5	▼1	1.8	
スト16 育児のために睡眠不足の日々が続いている	1.7		2		2.6		2.1	
スト17 夜間育児のために何度も起きなければならなくて困っている	1.4		1.7		2.2		1.8	
スト18 育児で体の疲れがたまっている	1.8		2		2.7	△3	2.3	
スト19 だだをこねられて困ってしまうことが多い	1.4		2.4		2.4		2.8	
スト20 子どもの機嫌が悪くなると困ってしまう	1.8		2.1		2.5		2.7	
スト21 暴れて動き回ったりいたずらされると困ってしまう	1.9		2.4		2.5		2.9	△3
スト22 子育てから解放されて息抜きできる時間が少なすぎる	2.2		2.1		2.7	△3	2.8	
スト23 子どもの世話で他のやりたいことができない	1.8		2.6		2.8	△2	2.8	
スト24 子どもの世話で自分の自由が利かないのがとても辛い	1.3		2		2.4		2.2	
スト25 子育ての毎日同じ事の繰り返しに嫌気がさしてくる	1.2		1.9		2		2.1	
スト26 完全な子育てをすべきだという周囲からのプレッシャーを感じる	1.2		2		2.2		1.8	
スト27 子育てに関する昔ながらの地域や家の慣習を押しつけてくる。	1.2	▼3	1.6	▼3	1.5	▼1	1.9	
スト28 祖父母の忠告によって子育てに対する迷いが生じることがある	1.2		1.7		1.8		1.9	
スト29 子どもの知的能力に気がかりがある	1.2		2.8	△3	2		1.7	▼3
スト30 子どもの言語能力に気がかりがある	1.4		2.9	△1	2.1		1.6	▼1
スト31 不可解な事件や犯罪に子どもが巻き込まれるか心配である	2.6	△2	2.1		2.5		3.2	△1
スト32 就労している母親に対する社会や行政の配慮が足りない	2.5		2.2		2.7	△3	3.1	△2
スト33 教育環境が不備なので子どもの行く末に不安を持つ	2		2.2		2.7	△3	2.5	
スト34 子どもに対して帰国後の不安がある	2.6	△2	2.7		2.4			
スト35 日本の文化に適應できず子育てで困ることがある	1.5		2.3		1.9			
スト36 子どもと接する時間がなくて辛い	2.3		2.0		1.7			
スト37 子どもが病気をしたときの対応に困る	1.9		2.7		2.1			
スト38 子どもに対する差別を感じ辛いことがある	2.5		2		2.2			
スト39 子育てと仕事の両立が大変だ	2.6	△2	2.9	△1	2.5			
スト40 子育てしていても孤独感を感じるがある	2.5		2.1		2.1			

△は上位 ▼は下位を示す。

夫の年齢では、各国とも30歳代が最も多く、次いで各国共に40歳代が多かった。

夫の国籍では、ほぼ母国となっており、ブラジルではペルー3人、日本3人、韓国では日本1人、中国では日本18人であった。

夫の就業時間は、各国共に8～12時間がもっとも多かった。

在日年数では、ブラジルでは10年以上が44人ともっとも多く、ついで5～10年未満の36人であった。一方韓国では、3年未満から10年以上それぞれにばらついていて、中国では、5～10年未満が29人ともっとも多く、ついで10年以上の44人であった。

子どもの数は、日本を除く各国共に1人がもっとも多く、子どもの数が3人以上は少なかった。日本は2人が最も多く、次いで1人であった。

母親の就業では各国とも就業しているものが多かった。就業時間では、ブラジルおよび中国では8～12時間がもっとも多く、韓国では8時間であった。

2. 国別育児ストレス

各国の育児ストレス値の平均および偏差、さらに上位項目と下位項目は表2のとおりとなった。ストレス平均値で最も高かったのは日本の86.0、韓国の85.6で、ついで中国84.8、ブラジルの70.6

となった。上位項目では、各国とも異なった項目であったが、下位項目は日本人を除いて、各国重なる項目であった。

日本人の育児ストレスは4ヵ国の中でもっとも高く、1位「不可解な事件や犯罪に子どもが巻き込まれるか心配である」、2位「就労している母親に対する社会や行政の配慮が足りない」、3位「暴れて動き回ったりいたずらされると困ってしまう」となった。

2番目に高い韓国人の上位育児ストレス項目では、1位「子どもの言語能力に気がかりがある」「子育てと仕事の両立が大変だ」、3位「子どもの知的能力に気がかりがある」であった。

3番目に高い中国人の上位育児ストレス項目では、1位「子どもの性格に気がかりがある」、2位「子どもの世話で他のやりたいことができない」、3位「就労している母親に対する社会や行政の配慮が足りない」「育児環境が不備なので子どものいく末に不安を持つ」などとなった。

もっとも育児ストレスの低いブラジル人の上位育児ストレス項目では、1位「子育てしながらでは就職できるところがないので困っている」、2位「不可解な事件や犯罪に子どもが巻き込まれるか心配である」、「子どもに対して帰国後の不安がある」「子育てと仕事の両立が大変だ」となった。

表3 育児ストレスと母親の属性および夫への信頼と幸福度（国別）

			ブラジル	韓国	中国	日本
夫への信頼	はい	ストレス低値群	39**	3	11	データ件数が5のため検定せず
		ストレス高値群	24**	9	18	
	いいえ	ストレス低値群	16**	6	14	
		ストレス高値群	31**	11	27	
	無回答		0	0	0	
幸福度	よくある	ストレス低値群	51	9	23*	189**
		ストレス高値群	49	14	31*	231**
	たまにある	ストレス低値群	3	0	2*	46**
		ストレス高値群	4	6	13*	154**
	全くない	ストレス低値群	0	0	0	0
		ストレス高値群	1	0	1	1
無回答		0	0	0	4	

ストレス値4ヵ国 平均値81.8 81以上高値群 80以下低値群

*検定 有意水準 $p < 0.01$ ** $p < 0.05$ *

各国の下位項目で重なっていた項目として、韓国人と中国人で「子どもの顔つきや容姿容貌に気がかりがある」「夫の子育ては不完全でかえって迷惑なことをする」、ブラジル人と韓国人で「周囲の人に子どもの母親としてしか見てもらえないのが辛い」「子育てに関する昔ながらの地域や家の慣習を押しつけてくる」であった。その他、ブラジル人で「同じ年頃の子どもの様子を知って我が子が劣っているのではと不安に思う」、中国人で「夫は子どもよりも自分の生活を中心に考えている」であった。

日本人では、「子どもの言語能力に気がかりがある」「子どもがあまりにも思い通りにならない」「子どもの知的能力に気がかりがある」が下位項目であった。

3. 国別育児ストレスと母親の属性との関係

各国の育児ストレス全体平均値の81より高い群を高値群とし、80以下を低値群とした。

各国の育児ストレス高値群と低値群と母親の属性とで検定を行った結果、各国とも母親の年齢、在日年数、子どもの数、母親の就業の有無とは有意差は認められなかった。

4. 国別育児ストレス時の対処と育児ストレス

多重回答による結果では、ブラジル人ではあき

らめたり我慢するが33件24.6%、次いで気持ちや見方を変えるが28件20.9%、人の助けを得るが25件18.7%であった。

韓国では人の助けを得るが12件31.6%、気持ちや見方を変えるが8件21.1%、他のことで気を紛らわす6件15.8%であった。中国では韓国と同様に人の助けを得るが36件35.3%、気持ちや見方を変えるが28件27.5%、3番目として日本人との交流をするが18件17.6%となった(表4)。

5. 国別夫に対する思いと育児ストレス

多重回答による結果では、ブラジル人では本当によくやってくれているが75件22.8%、信頼しているが64件19.5%、他の夫に比べればましが49件14.9%であった。韓国では信頼している12件20%、大切に思っている11件18.3%、本当によくやってくれている9件15%であった。中国人ではブラジル人と同様に本当によくやってくれているが35件21.6%、信頼しているが29件18.5%となっており、3番目として大切に思っている23件14.6%となった。

日本人の調査結果では、本当によくやってくれているが1220件35.8%、他の夫に比べればましが855件25.1%、夫は夫お互いに干渉しない519件17.3%であった。

表4 ブラジル・韓国・中国人の育児ストレス時の対処

対処項目	多重回答 件数 (%)						
	ブラジル		韓国		中国		合計
人の助けを得る	25 (18.7)	(34.2)	12 (31.6)	(16.4)	36 (35.3)	(49.3)	73 (26.6)
気持ちや見方を変える	28 (20.9)	(43.8)	8 (21.1)	(12.5)	28 (27.5)	(43.8)	64 (23.4)
あきらめたり我慢する	33 (24.6)	(75.0)	4 (10.5)	(9.1)	7 (6.9)	(15.9)	44 (16.1)
日本人との交流をする	10 (7.5)	(34.5)	1 (2.6)	(3.4)	18 (17.6)	(62.1)	29 (10.6)
他のことで気を紛らわす	4 (3.0)	(36.4)	6 (15.8)	(54.5)	1 (1.0)	(9.1)	11 (4.0)
日本語の勉強をする	4 (3.0)	(36.4)	3 (7.9)	(27.3)	4 (3.9)	(36.4)	11 (4.0)
その他	30 (22.4)	(71.4)	4 (10.5)	(9.5)	8 (7.8)	(19.0)	42 (15.3)
合計	134	(49.0)	38	(13.9)	102	(37.2)	274

表5 ブラジル・韓国・中国人の夫に対する思い

多重回答 件数 (%)

夫への思いに関する項目	ブラジル		韓国		中国		合計	日本
本当によくやってくれている	75 (22.8)	(63.6)	9 (15.0)	(7.6)	34 (21.6)	(28.8)	118 (21.6)	1220 (35.8)
信頼している	64 (19.5)	(61.0)	12 (20.0)	(11.4)	29 (18.5)	(27.6)	105 (19.2)	5 (0.1)
大切に思っている	38 (11.6)	(52.8)	11 (18.3)	(15.3)	23 (14.6)	(31.9)	72 (13.2)	10 (0.3)
他の夫に比べればまし	49 (14.9)	(69.0)	7 (11.7)	(9.9)	15 (9.6)	(21.1)	71 (13.0)	855 (25.1)
思いやりの心を持って接している	36 (10.9)	(59.0)	6 (10.0)	(9.8)	19 (12.1)	(31.1)	61 (11.2)	29 (0.9)
大変だと思うから、多少のことは仕方ない	20 (6.1)	(40.0)	8 (13.3)	(16.0)	22 (14.0)	(44.0)	50 (9.2)	156 (4.6)
相手に期待しすぎる	20 (6.1)	(83.3)	2 (3.3)	(8.3)	2 (1.3)	(8.3)	24 (4.4)	320 (9.4)
自分の気持ちをわかっていない	12 (3.6)	(60.0)	4 (6.7)	(20.0)	4 (2.5)	(20.0)	20 (3.7)	64 (1.9)
不満がある	7 (2.1)	(58.3)	1 (1.7)	(8.3)	4 (2.5)	(33.3)	12 (2.2)	
その他	6 (1.8)	(66.7)	0 (0)	(0)	3 (1.9)	(33.3)	9 (1.6)	5 (0.1)
夫は夫、お互いに干渉しない	2 (0.6)	(50.0)	0 (0)	(0)	2 (1.3)	(50.0)	4 (0.7)	591 (17.3)
合計	329	(60.3)	60	(11.0)	157	(28.8)	546	3409

他の国であげられていた信頼している、大切に思っている、思いやりの心を持って接しているについては日本人では計44件1.3%と少なかった

(表5)。

ブラジル人では夫への信頼の高い母親と有意水準1%で育児ストレス(高値群・低値群)に有意

表6 ブラジル・韓国・中国人の日本に対する希望

多重回答 件数 (%)

希望の内容	ブラジル		韓国		中国		合計
母国語の学校や課目がほしい	38 (26.8)	(45.8)	15 (42.9)	(18.1)	30 (29.1)	(36.1)	83 (29.6)
雇用者の子育てしている事への理解がほしい	56 (39.4)	(76.7)	2 (5.7)	(2.7)	15 (14.6)	(20.5)	73 (26.1)
日本人や自分の国の人ととの交流の場がほしい	11 (7.7)	(21.6)	11 (31.4)	(21.6)	29 (28.2)	(56.9)	51 (18.2)
保育園や幼稚園の内容や時間を改善してほしい	20 (14.1)	(43.5)	2 (5.7)	(4.3)	24 (23.3)	(52.2)	46 (16.4)
その他	17 (12.0)	(63.0)	5 (14.3)	(18.5)	5 (4.9)	(18.5)	27 (9.6)
合計	142	(50.7)	35	(12.5)	103	(36.8)	280

表7 ブラジル・韓国・中国人の育児幸福感

	件数 (%)							
	ブラジル		韓国		中国		合計	日本
よくある	101 (91.8)	(56.7)	23 (79.3)	(12.9)	54 (77.1)	(30.3)	178 (85.2)	421 (67.7)
たまにある	7 (6.4)	(25.0)	6 (20.7)	(21.4)	15 (21.4)	(53.6)	28 (13.4)	200 (32.2)
全くない	1 (0.9)	(50.0)	0 (0)	(0)	1 (1.4)	(50.0)	2 (1.0)	1 (0.2)
無回答	1 (0.9)	(100)	0 (0)	(0)	0 (0)	(0)	1 (0.4)	0 (0)
合計	110	(52.6)	29	(13.9)	70	(33.5)	209	622

な差が認められた。夫への信頼のある母親は、育児ストレスが低い母親に多かった。逆に夫への信頼のない母親は育児ストレスが高い母親が多かった(表3)。

6. 国別日本に対する希望

多重回答による結果では、ブラジル人では雇用者の子育てしていることへの理解がほしい56件39.4%、母国語の学校や課目がほしい38件26.8%、保育園や幼稚園の内容や時間を改善してほしい20件14.8%であった。韓国や中国ではまず、母国語の学校や課目がほしい15件42.9%・30件29.1%、次いで日本人との交流の場がほしい11件31.4%・29件28.2%、中国では雇用者の子育てしていることへの理解がほしい24件23.3%となった(表6)。

7. 国別育児幸福感

ブラジル人がもっとも多く育児幸福感を感じており、よくあるが101人91.8%であった。次いで韓国人、中国人、日本人が多く、23人79.3%、54人77.1%、421人67.7%であった。韓国人、中国人でたまにあるが20%を占め、日本人ではよくあるが少ない分32%であった。育児幸福感を感じる機会が全くないが中国人およびブラジル人、日本人では1人いた(表7)。

中国人・日本人では、育児をしているの幸福度と育児ストレス(高値群、低値群)に有意水準5%で有意差が認められた。育児幸福感をよく感じているまたはたまに感じている母親に育児ストレスが高い母親が多かった(表3)。

IV. 考察

対象である在日外国人の母親は、仕事を持ちながら、厳しい生活を余儀なくされていることから、調査用紙の回収率が悪く、また、外国人の多い園に集中して調査依頼が重なり、園や外国人保護者の負担から、協力の拒否を受けるなどその実態を把握することは難しかった。

回収率に差があったことから、比較の難しさはあるが、次のようなことが考えられた。

1. 育児ストレスについて

育児ストレスをみていくと、ブラジル、韓国、中国、日本の順に高くなっていった。

もっとも育児ストレスの高かった日本人は、育児でもっとも頼りにしている夫や実母²⁰⁾の協力が少ないことや²¹⁾、核家族化や少子化の中で育児伝承が薄れ孤立化する母親も多い。また、現代の価値観の多様化の中で母親自身の生き方の揺らぎや姑を中心とした育児を取り巻く人々とのストレスも高まっているといえる。母国にいながらにして、異文化で子育てしている母親よりも育児ストレスが高まっていた。

2番目に育児ストレスが高かった韓国人では、三綱五倫(父為子綱 君為臣綱 夫為婦綱 父子有親 君臣有義 夫婦有別 長幼有序 朋友有信)が社会の道德規範として機能しており、女性に対しては「在家従父 婚家従夫 亡夫従子」に甘んじる従順さが要求されてきた。また、夫婦のことを内外(イエウエ)と証するように、一般に男性は外の仕事、女性は家の中の仕事を行い、男女の

役割分担が明確にされてお互いに関与することは規制されている。家内の平安と繁栄は妻としての役割を果たすそのやり方にかかっているとされる¹⁹⁾。しかし、都市部や若い親世代では、こうした儒教の教えは薄れつつある。韓国の新聞の社会面を見ていくと、男女の関係についての事件や問題が多い。男性中心の傾向は韓国ではやはり強く、また女性の側の抵抗と意義申し立ても強いといえる。韓国人は論争が好きで、また、上昇志向が強いともいわれている。日本に住む韓国人の母親は子どもの知的言語的能力への懸念が多くみられ、教育に対する関心の高さがうかがわれた。また、子育てと仕事との両立に対するストレスが高かった。

一方、3番目に育児ストレスが高かった中国人は、女性が職業を持ち、それと同時に結婚して子どもを産むことが当然のこととされている社会である。夫は妻と同じように子育てを含む家事を行わなければならない、両者の子どもに対する違いも基本的にはなくなっている¹⁶⁻¹⁸⁾。新中国になってからの45年間に核家族が2倍ほどに増加したのに伴い、誰でも利用できる託児所や幼稚園などの子育てを支援する施設も格段に整備され、母親達の負担を軽減してきた。また、人口過剰を緩和するために、1978年憲法の計画出産に関する規定により、翌年より本格的に推進されるようになった「一人っ子政策」により、家庭の期待を一身に集め、大事に保護されて育つため自立心がなく依存心が強い子どもが多くなっているといわれている。日本に住む中国人の育児ストレスは、子どもの性格や子育て環境や日本人の母親にも多くみられた育児束縛感がみられていた。日本では中国ほど子どもの預け先が十分確保されていないことや子どもを預けられずにいることでの問題と考えられる。また、母国では1人の子どもであるにもかかわらず、今回の調査では子どもが2人以上が半数以上を占めており、兄弟関係などから子どもの性格に対するストレスが生じていると考えられた。

もっともストレスの低かったブラジル人では外国人独特のストレスが高く、併せて日本人のストレスとして高かった育児環境の不備に対するものもみられていた。

育児ストレスの低かったブラジル人は、開放的で人なつっこい。隣席にいる人に話しかけるのは日常茶飯事である。パーティが好きでしかもあつという間に和やかな雰囲気盛りがってしまう。また、ブラジル人は、相手を不快にさせたくない、相手からなるべくよい人物だという印象を持ってもらいたいために、お世辞がうまく、心にもない約束をしてしまうことがある。他意はないが、ついお世辞のつもりでできそうな約束をしてしまう。また他人を責めることに寛大な分、自己に対しても寛大だということがある。大国の気質「おおらかさ」が残っている。そして、楽天的である^{11, 12)}。こうしたことから育児に対してもおおらかに楽天的に対応することが考えられその結果ストレスが少ないと考えられた。特に日本の母親は夫や周囲の人々に対するストレスが高いが¹⁰⁾、ブラジル人は人に対するストレスが少ないことが特徴であり、帰国後の不安や子どもへの差別など在外日本人特有のストレスが高いことは先行研究と同様の結果であった^{14, 15)}。

今回用いた育児ストレス尺度は日本人の母親を対象に作成されたものであることから、育児に対する周囲の協力要求や夫の育児態度への評価など日本以外の国では低かった項目が含まれていたことから、日本が最もストレスが高い結果となったとも考えられた。

また、在外日本人は異文化での生活の中で育児以外のストレスが多いことが予想されることから結果として育児ストレスが低かったとも考えられた。また、ブラジル人の調査をした市では、外国人に対する行政施策が充実しており、不安定な母国との比較も含め育児ストレスが低いと考えられた。

2. 夫への思い・育児幸福感について

夫への思いでは「本当によくやってくれている」という共通した思いと共に、日本人には少なかった「信頼している」「大切に思っている」「思いやりの心を持って接している」が多かった。日本人を除く国での夫に対する関係の良さがうかがえた。異国で夫婦力を合わせてやらなければならないというおかれた環境の違いはもとより、夫が家事・育児の協力をするのが当然であるという文化では、

育児ストレスは少ないものと考えられた。相手に自分の考えを主張し、愛情が冷めたときは別れるといったはっきりしているところもある。特にブラジル人では、夫に対する信頼の高い母親に育児ストレスが低い母親が多かったことが明らかとなった。中国人では育児幸福感を「よくある」、または「たまに感じる」頻度の高い母親ほど育児ストレスが高い母親が多かったことから、育児ストレスと育児幸福感は必ずしも比例するものではないことが示唆された。

育児幸福感では、ブラジル人が最も高く、韓国人、中国人、日本人となっていた。この結果は、ストレスの高さからも逆の同様の傾向となっていた。

ブラジル人は育児ストレスが少なく育児幸福感が高かった。一方日本人は育児ストレスが高く、育児幸福感も低かった。韓国人、中国人はその中間に位置していた。

3. 育児ストレスの対処・日本への希望

ブラジル人は「あきらめたり我慢する」が最も多く次いで、韓国人や中国人と同様、「気持ちや見方を変える」「人の助けをうる」が最も多かった。気持ちを変えるや人の助けをうる等の積極的な対処が多いことは、異国でのストレスに対し、自分が変化し働きかけることで解決しようとする姿勢がうかがわれた。

ブラジル人があきらめや我慢が多かったことに対しては、ブラジル人の気質から考えにくい結果であった。しかし、今回の調査対象が在日年数が5年から10年以上が71%と多かったことから、在日年数が長くなるに従い日本人の対処に近づきつつあるとも考えられた。

日本への希望では、ブラジル人では「雇用者の子育てしていることへの理解がほしい」韓国人では「母国語の学校や課目がほしい」、中国人は「日本人や自分の国の人との交流」がもっとも多くなっていた。

日本に在留する外国人のおよそ5人に1人が東京に在住しており、こうした外国人のための東京都外国人相談窓口の報告によると、対応言語の多様化に伴って、現在は英語、フランス語、中国語、ハンゲル語、スペイン語の5言語で対応している。

特に、中国人の相談では、定住化に伴い子どもの教育（保育所への入所の時期、中学高校への編入学）など生活に密着した相談（健康保険、年金、税金）が増加している。また相談者も就学生や留学生が多かったが今は、日本人の配偶者、中国料理の調理師や会社員、帰国者2世等様々な人達からの相談となっている。英語での相談では80ヶ国以上の外国人が様々な相談（日本人との結婚や離婚、離婚に伴う親権、住宅や仕事）をしている。労働相談の需要が高まっており、賃金不払い（全体の75%）と解雇（全体の16%）が9割を占めている²⁹⁾。ブラジル人の就労環境の厳しさが、こうした今回の雇用者の子育てしていることへの理解がほしいという希望が高かったことに現れたと考えられる。

国土交通省における「国際化に関する最近の動向／外国人ビジネスマンの暮らしから見えた首都圏」によると医療では母国語、英語を話せる医者が少ない、待ち時間が長い、病院の情報が少ない、費用が高い・交流やコミュニケーションでは、在日年数の短いものの不満が多く日本語を学ぶ時間がない、英語や、その他の外国語でのサービスや表記が少ない、話せる人がいない・スポーツ施設や文化施設、インターナショナルスクールの不足・外国人を受け入れる体制が整っている日本の学校が少ない・母国語を教える学校が少ない・母国語を話せる教師が少ないに課題があるとなっている²⁹⁾。こうした報告と同様、今回の調査結果からも明らかなように教育、就労、交流やコミュニケーションなど課題は大きいといえる。

特に母国語で思いっきりストレスを発散し話を聞いてもらえるところが不足しているといえる。

（今回の調査にご協力をいただいた浜松・豊橋・横浜・川崎市・裾野市・沼津市内の保育園の園長はじめ関係者の皆様および韓国・中国・ブラジル・日本人のお母様に深く感謝する。また、翻訳確認にご協力いただいた、静岡県立大学尹大榮先生および余項科先生にお礼を申し上げたい）

（本研究は静岡県立大学学長特別研究助成にて行われた）

文 献

1) 厚生省児童過程局母子保健課監修、我が国の母子保

- 健統計. 母子保健事業団. 東京, 1998.
- 2) 李節子編集. 在日外国人の母子保健—日本に生きる世界の母と子—. 医学書院. 東京, 1998.
 - 3) 田中宏著. 在日外国人—法の壁, 心の溝—. 東京, 岩波新書, 1995, 370.
 - 4) 井口泰著. 外国人労働者新時代. 東京, ちくま新書, 2000, 288.
 - 5) 渡辺洋子他. 在日外国人が日本の母子保健医療に望むもの. 母性衛生. 1995, 36, 337 - 342.
 - 6) 筑波優子他. 在日外国人母親への母子保健に関する実態調査. 日本公衆衛生雑誌. 1996, 42, 555.
 - 7) 山田牧他. 在日外国人母子保健問題における一考察. 日本公衆衛生雑誌. 1996, 43, 947.
 - 8) 布田佳子他. 国際育児相談のまとめと分析. 東京都衛生局学会誌. 1995, 95, 182 - 183.
 - 9) 吉岡毅. 在日外国人に対する乳幼児保健サービス. 小児内科. 1994, 26, 1597 - 1600.
 - 10) Shimizu, Y. A study on the structure of Childcare stress scale. Japan Academy of Nursing Science, International Nursing Research Conference 4. 2001, 125
 - 11) 三田千代子他編. ラテンアメリカ家族と社会. 新評論. 東京, 1992, 11 - 29, 98 - 115, 276 - 294.
 - 12) 国本伊代他著. ラテンアメリカ社会と女性. 新評論. 東京, 1992, 61 - 85, 141 - 226.
 - 13) 清水嘉子, 西田公昭. 育児ストレス構造研究. 日本看護研究学会. 2000, 23 (5), 55 - 67.
 - 14) 清水嘉子. 子育てに関する研究—日本の母親と在日ブラジル人の母親の育児ストレスを中心に—, 常葉学園大学修士論文. 2000, 105 - 128.
 - 15) 清水嘉子. 在日ブラジル人の育児ストレス研究. 母性衛生. 2001, 42 (2), 473 - 480.
 - 16) 綾部恒雄編. 女の文化人類学. 東京, 弘文堂, 1982, 10 - 115, 282 - 362.
 - 17) 小倉紀蔵. 韓国人のしくみ—理と気で読み解く文化と社会—. 講談社現代新書 1536, 2001, 54 - 98.
 - 18) 恒吉僚子他編著. 育児の国際比較. 東京, NHK ブックス 808, 1997, 11 - 83, 133 - 153.
 - 19) 秋山洋子他 3名編訳. 中国の女性学—平等幻想に挑む—. 東京, 甄草書房, 1998.
 - 20) 清水嘉子, 北村キヨミ, 落合富美江. S市における初産婦の産後1ヵ月頃までのケアニードの明確化—入院形態別分析を通して—, 母性衛生, 2001, 42 (4), 709 - 721.
 - 21) 内閣府大臣官房政府広報室編. 月刊世論調査—男女共同企画社会—. 2001, 33 (2), 3 - 63.
 - 22) 国際交流編集局. 国際交流., 2001, 9, 14 - 16.
 - 23) 国際交流編集局. 国際交流., 2001, 8, 2 - 12.